



雇均在発 0518 第 1 号
平成 30 年 5 月 18 日

公益社団法人日本精神科病院協会
会長 殿

厚生労働省雇用環境・均等局在宅労働課長

「テレワーク・デイズ」参加企業等の募集について

平素より厚生労働行政に格別の御高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、厚生労働省では、総務省、経済産業省、国土交通省、内閣府、内閣官房や東京都、経済団体と連携し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京大会」という。）を契機としたテレワーク国民運動プロジェクト「テレワーク・デイズ」を、7月23日（月）～27日（金）の5日間にわたり実施します。

昨年は、東京大会の開会式にあたる7月24日を「テレワーク・デイ」と位置付けて、テレワークの一斉実施を呼び掛けましたが、今年は、前回の施策を発展させた「テレワーク・デイズ」として、複数日のテレワーク実施を呼び掛けており、現在、「テレワーク・デイズ」に参加いただける企業・団体を募集しています。

つきましては、貴団体におかれましても趣旨にご賛同いただき、会員への周知方ご協力いただくとともに、本取組への参加についても御検討の程、よろしく願い申し上げます。

○「テレワーク・デイズ」参加企業等の募集

7月23日（月）～27日（金）の5日間の中で、コア日である24日と、その他の日の計2日間以上（※）をテレワーク・デイズとして実施するよう呼び掛け、特設サイト（<http://teleworkdays.jp/>）で参加企業等を募集しています。

（※初参加の企業・団体は、7月24日の1日でも参加可能としています。）

参加いただく企業・団体は、①実施団体、②特別協力団体、③応援団体の3分類ありますので、それぞれの参加形態に応じて、ご登録いただけます（別紙参照）。

【本件に係る担当・問い合わせ先】

厚生労働省雇用環境・均等局在宅労働課 米谷（よねや）
電話 03-5253-1111（内線 5307）

「テレワーク・デイズ」に積極的なご参加をお願いします！



○ 総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、内閣官房、内閣府では、東京都及び関係団体と連携し、働き方改革の国民運動を展開しています。

○ 昨年、2020年東京オリンピックの開会式にあたる7月24日を「テレワーク・デイ」と位置づけ、テレワークの全国一斉実施を呼びかけた結果、**約950団体・6.3万人**が参加し、国民運動として大きな一歩を踏み出しました。

★2018年は、7月23日(月)～7月27日(金)の間において、各企業・団体の状況に応じて、7月24日(火)＋その他の日の計2日間以上を「テレワーク・デイズ」として実施します。 **2,000団体・延べ10万人の参加を目標**

キャンペーンサイト(<https://teleworkdays.jp/>)上で、テレワークを実施する団体・応援する団体の参加登録を受け付けています！

登録受付期間：2018年4月20日(金)～7月20日(金)

実施団体

参加人数等を問わずテレワークを実施又はトライアルを行う団体です。

※ 初参加の場合など、1日だけ、少人数の参加でもOKです。
※ 実施報告は不要です。

特別協力団体

テレワークの実施に際し、

- ①2日間以上実施、
- ②7月24日(火)に100名以上実施、
- ③効果測定
(交通混雑緩和、消費支出の変化等)に協力可能な団体です。

応援団体

テレワークに係る実施ノウハウ、ワークスペース、ソフトウェア等を提供する団体です。

※ 実施団体又は特別協力団体と併せて登録することが可能です。
※ 実施ノウハウの提供とは、自社のテレワーク導入の取組等について、ホームページ、メールマガジン、講演等を通じて発信することを想定しています。

テレワーク導入の主な効果

交通混雑の緩和

・テレワーク・デイにおいて東京外口豊洲駅のピーク時間帯(8時台)の通勤量が**10%削減**
・テレワーク・デイ当日の出勤率が**5%以上減少**していたエリアが都内の複数(江東区・品川区・渋谷区・新宿区・中央区・千代田区・港区等)に存在。

生産性の向上

・テレワーク導入企業の労働生産性は導入していない企業の**1.6倍**(H28情報通信白書)
・2017年テレワーク・デイ当日の勤務時の生産性が通常時と比較して**16%増加**(実感値)(A社)

ワークライフバランスの確保

・平均残業削減**44分/日削減**、平均通勤時間**97分/日削減**(B社)
・テレワーク利用者の**約80%**が「私生活の満足度」が向上したと回答(C社)

優秀な人材の確保・離職防止

・女性離職率が5年で**49%減少**(D社)
・育児後の職場復帰率(2016年度実績)が**96.5%**に(E社)
・離職率減少**28%→4%**(F社)

オフィスの消費電力量の削減

・テレワーク・デイにおいて回答があった全ての団体で実施日の消費電力量が減少(**最大18%、平均7.1%削減**)

コストの削減

・残業時間**8.5時間/人月削減**により年間**3000万円削減**、オフィス賃料**1500万円/年削減**(H社)
・1年で印刷枚数が**約4割削減**(I社)

事業継続性の確保(BCP)

・3.11東日本大震災の際に**約85%**の従業員がテレワークを活用(J社)
・熊本地震発生**2日後**から仕事を再開(K社)

まずは自らテレワークを「やってみる」ことにより、課題やメリットを肌で感じてください！



まずはやってみようテレワーク
参加しよう「テレワーク・デイズ」!